

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる“孤立のない”地域づくり

事例から抽出した地域の課題と目標	課題解決に向けた「目標」	すでに緑区内で取り組んでいること	もう少し取り組んでいくとよいこと	目標達成のための「具 体 策」	具体策を実施するために必要な人・物・予算		
		＜強み＞	＜具体策＞	人	物	予算	
1 地域とのつながりを望まずあえて集合住宅に入居する人もいて干渉を避けたがる傾向がみられる		<p>○歴史がある地域は、もともとのつながりを見守りに活かせる古くからの自主サロンがあったりする</p> <p>↑ 地域で広く知られていない？ 参加の仕方がわからない…</p> <p>○大高校区取組み ①総務課の「助け合いの仕組みづくり」では避難行動要支援者として外部への名簿提供に約50%の人が同意（いざという時の助けを希望）。この名簿には、民生委員の「あたたかく見守る運動」の拒否者も掲載されていたことから「助け合いの仕組みづくり」の名簿を地域での見守りにも生かすあり方を検討している。</p> <p>②警察署(交通課)と民生委員と一緒にひとり暮らし等の高齢者宅を訪問。交通事故予防の啓発活動の一環だが、見守り活動としても有意義。公の方が一緒に回ることにより期待される効果もある。</p> <p>○地域で見守り活動をしている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員 ↓ 通報につながること多い：入室する際の鍵の問題 ・高齢者福祉相談員 ・いきいき支援センター ・サロン ・老人クラブ（公園の清掃など） ・独居高齢者給食会 ・住宅供給公社巡回員（市営住宅ふれあい創出事業） ・新聞販売店などの協力事業者 ・PTA ・青パト ・ワンワンパトロール などなど <p>○消防署の防火の取組み ひとり暮らし高齢者などに訪問して火の元の確認を長年してきた。 *防火のチラシ</p> <p>○サービス事業者として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族とも関係づくり、本人、家族とのつながりを強くする。 ・会合等に参加して得た情報をもとに発信するとよいと思う情報を個人情報に配慮しながら発信する。 ・慣れたテイスサービスには行けるがサロンには送迎がないから行けない。←近くにサロンがあれば行けるかも？ <p>○当事者、近所をつなかりづくり (←うまくいっていないこともある…)</p> <p>○楽しみながら参加できる取組み(例 ゲーム、認知症予防イベント) サロン活動や自主サークル（地理的に参加しやすい範囲）で地域の課題をとりあげる</p>	<p>○住民のつながりづくりへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内のサロン、たまり場を増やす(現在 100か所程) ・子どもが保育園や学童保育に行っていたときは夫婦で一緒に動いていた →夫婦で参加できるサロン、たまり場があってもいい →男性も参加できる、高齢者の支援者にもなってもらえる？ ・リタイア後の男性も集える場づくり ・認知症の方やその家族が集える場づくり（認知症カフェ） <p>○バラバラの団体が話し合う場を設ける（防災をテーマにすると話し合い易い）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミセンの管理当番を地域役員にしてもらおうと情報交換の場にもなる ・ケアマネと民生委員の交流を図る 交流会や利用者が独居の場合はケアマネから民生委員へあいさつ 	<p>①-1 身近なサロンを増やす いつでも誰でも交流できるサロン、たまり場がたくさんできる (2025年目標：1町内に1か所)</p> <p>①-2 男性が参加しやすいサロンづくり ↓ 活動中のサロンについて情報収集し、男性が多く参加しているところを把握する ↓ ○男性サロンのモデル実施 ○夫婦で参加できるプログラムの検討 ①-3 認知症カフェづくり</p>	<p>○緑区社会福祉協議会（認知症専門部会） 自治会 民生委員 世話役(サロン運営者)</p> <p>開催場所 案内チラシ 事務用品 (名簿、会則作成など) 茶菓</p>	<p>会場借上げ料 消耗品費</p>	
2 住民同士がつながることのできるきっかけが少ない	負担のない関係の中で緑区に暮らす人たちのつながりを高めていく			<p>①-3 サロン未参加者を参加につなぐ仕組みをつくる ↓ ○サロン運営者の研修に「参加者を拡大する」（参加しやすいサロンづくり、未参加者への声かけなど）の内容を入れる。</p> <p>○民生委員、高齢者福祉相談員に定期的にサロンの最新情報を知ってもらう。</p> <p>○サロンの紹介チラシの作成</p> <p>○サロン参加意思等のアンケート実施</p>	<p>○緑区社会福祉協議会 自治会 民生委員 世話役(サロン運営者)</p> <p>研修会案内チラシ</p>	<p>チラシ作成料 会場費 講師謝礼</p>	
3 一人暮らしや認知症から火事の心配・ゴミ問題など気になる高齢者がいるが、周りから理解されず周囲の人との関係が悪化してしまい孤立している	気になる人を地域の中で把握でき、普段から声をかけあえるようにしていく	○「安心カード（冷蔵庫や下駄箱に入れる・冷蔵庫に貼るもの）」		<p>②-1 見守りが必要な高齢者の状況や暮らしぶりを具体的に理解できる仕組みができる</p> <p>見守りが必要な高齢者の暮らしぶりが伝わるシートを作成する ちょっと気になる見守りが必要な高齢者の把握 ↓ ○別居の家族に伝えるためのシートの作成と配布</p> <p>○地域の方（ご近所、民生委員など）に見守りの大切さを伝えるためのチラシ作製</p> <p>○民生委員やケアマネジャー等との個別面談会の開催</p>	<p>○いきいき支援センター 民生委員 社会福祉協議会 自治会 老人クラブ</p> <p>検討に使用する紙や文房具代 作成用の紙、印刷代など</p>	<p>紙等の材料費、印刷代 検討会議のお茶代 面談会場費</p>	
4 外から家の状況を見た悪質商法の業者に引っかかる高齢者が増えてきている			町内レベルでの情報共有が必要。底辺を広げてたくさんの方が情報共有できる情報発信の仕組みづくり。				
5 家族関係が希薄で近隣の人に世話を任せてしまい、いざという時に連絡が付きにくく何かするにも困難	ふだんから家族を含めた地域とのつながりを築いていく		相手にあったアプローチの方法がとれるよう、身近な人（つながる人、キーマンをつくる）から情報が入る仕組みづくり *キーマンをどう見つけるか *キーマンが家族ともつながれるように *見守りが必要な本人からどう聞き取るか（民生委員の努力？）				
6 医療を拒否し、認知症の悪化から地域でのトラブルや徘徊などによる行方不明が心配	地域のなかの認知症への理解が不十分	○認知症に関する啓発活動の実施 ・認知症専門部会の取組み：「認知症ってなあに」など ・国立長寿医療研究センターとの協同研究	啓発活動の継続 認知症予防スタッフの活動の場の検討 認知症ケアパス・初期集中支援チーム・徘徊おかえり支援事業模擬訓練の実施 など	<p>③-1 認知症について、状態や関わり方など地域のなかの理解者が増える</p> <p>○住民向け認知症研修会</p>	<p>※認知症専門部会が担当</p> <p>チラシの作成 研修会の案内チラシ</p>	<p>チラシ作成料 会場費 研修資料代 講師謝礼</p>	